

## 畜産

## ～多様な畜産経営を実現～

## 【数値目標】

項目	現状	目標 (令和7年度)
畜産産出額	1,194億円 (令和2年)	1,300億円

## I 酪農及び他畜種共通

## 【目指す姿】

- スマート技術の導入や作業の外部化が進み、労働生産性が向上している。また、暑熱対策等、飼養環境の改善や管理技術の向上により収益性が向上している。
- 遺伝的改良効果の高い精液・受精卵等の活用により個体能力が向上し、生産性が向上している。
- 地域と調和した持続可能な経営が展開されている。
- 飼料作物の生産・利用を拡大し、輸入飼料価格に左右されない安定した経営が展開されている。
- 県産畜産物に対する消費者の認知度が向上し、需要が拡大している。

## 【現状と課題】

- 年間労働時間が長く、休みが取りづらい労働環境が要因となり、生産者の高齢化や後継者不足が進んでいるため、省力化技術の導入や作業外部化による労働負担軽減が必要です。
- 家畜においては遺伝子レベルの能力評価が実用的となっており、個々の経営においてもそれらを活用して遺伝的な改良速度を上げる必要が生じています。
- 持続可能な畜産経営を目指すためには、周辺地域に配慮した環境対策、及び耕種農家のニーズに即した堆肥の生産や広域流通に取り組む等、資源循環型農業の更なる推進が必要です。
- 飼料自給率の向上や災害・防疫対策の強化により海外情勢、気候変動、伝染性疾病などの外的要因に左右されにくい安定した経営を実現する必要があります。
- 消費者のニーズ（購入形態、食の簡便化等）が多様化する中、これまで開拓した需要先に対する供給力強化と認知度の更なる向上が課題となっています。

### 【主な取組】

- ・労働負担の軽減、及び飼養管理・繁殖管理の効率化を促進するため、スマート技術の導入・普及を推進します。
- ・労働力不足の解消や労働時間の短縮のため、労働力を補完する組織（育成牧場・酪農ヘルパー・飼料生産コントラクター等）の育成・強化を推進します。
- ・畜産農家と周辺地域の畜産関係団体等が連携した畜産クラスターの構築を図り、畜産経営の収益性を地域全体で向上させる取組を推進します。
- ・畜産堆肥の有効利用を促進するため、県ホームページを活用した畜産堆肥の成分分析結果や畜産農家情報の県内外への発信や実証展示ほの設置により、耕種農家と畜産農家とのマッチングを支援するとともに、広域流通の取組を推進します。
- ・自給飼料の生産・利用拡大を推進するため、水田や荒廃農地等を活用した飼料用米やWCS用稲等の生産支援、多収品種の導入や二期作・二毛作による収量増加の推進等を行います。
- ・関係団体、量販店等と連携して県産畜産物のPR活動により販売向上を図ります。また、インターネット等を活用した効果的な情報発信により県産畜産物の販路を開拓するとともに、消費者の購入機会を拡大します。

### 【数値目標】

項目	現状	目標 (令和7年度)
粗飼料自給率	34% (令和2年度)	42%



WCS用稲の収穫調製作業（稲を収穫・梱包し、ラッピングした後、保管場所へ輸送）

## Ⅱ 酪農 ～地域の特色を生かした多様な酪農経営の育成～

### 【目指す姿】

#### 《北総地域》

○搾乳ロボット等のスマート機器を活用した新しい生産体系を導入し、規模拡大と省力化を実現している。

#### 《県南地域》

○飼養管理技術の向上や高能力牛群への改良による1頭当たりの生産性向上や6次産業化による収益性の高い経営を実現している。

### 【現状と課題】

#### 《北総地域》

○規模拡大の進展により、従事者1人当たりの管理頭数が増加しているため、スマート技術の導入により、効率的な牛群管理と労働時間削減を図る必要があります。

#### 《県南地域》

○半島性の丘陵地帯が広がり、土地利用に制約があるため大規模経営への転換が難しいことから、スマート技術や牛群検定の活用により個体能力を最大限に発揮させ、1頭当たりの収益性を向上させる必要があります。

○県南地域は「酪農発祥の地」等の地域資源や観光資源に恵まれていることから、それらを有効に活用する必要があります。

### 【数値目標】

項目	現状	目標 (令和7年度)
生乳生産量	189,753t (令和2年)	195,500t

### 【主な取組】

#### 《北総地域》

- ・畜産クラスター事業等の積極的な活用により、それぞれの経営方針に適した施設整備や機械導入を推進し、規模拡大を支援します。
- ・搾乳ロボットや発情発見システム等のスマート機器の導入により、効率的な牛群管理と省力化を推進します。
- ・広大な水田地帯に位置又は隣接し、飼料用米、WCS用稲が入手しやすいことから、積極的な利用拡大を図ります。

## 《県南地域》

- ・牛群検定やゲノミック評価による個体能力の把握、及び受精卵移植等の活用により、高能力乳用牛・和牛の生産を推進します。
- ・牛舎内の飼養環境の改善や事故率の低減、及び供用期間の延長など、飼養管理技術の向上を図るための指導を強化します。
- ・搾乳ユニット自動搬送装置等、スマート機器の導入により省力化を推進するとともに、生産者に対し、導入した機器を円滑に活用できるように、現場指導体制を強化します。
- ・就農者の定着に向けて、既存の経営資産の有効活用も含めた施設・機械の整備、及び補改修を推進します。
- ・「酪農のさと」やその周辺の地域資源の活用による酪農と地域の活性化に向けた取組を支援するとともに、酪農の歴史展示や「おいしい牛乳をありがとう絵手紙コンクール」等の子供向け体験企画を積極的に開催することにより、酪農の理解醸成を図ります。
- ・酪農と地域産業や観光産業との連携や、牛乳・乳製品の6次産業化による付加価値の創出に向けた取組を推進します。



繋ぎ牛舎での自動給餌ロボットの導入



酪農発祥の地「酪農のさと」

### Ⅲ 肉用牛 ～繁殖雌牛の改良促進と飼養管理の効率化による経営安定化～

#### 【目指す姿】

- 規模拡大と肥育・繁殖一貫経営への移行により経営が安定している。(肥育期間短縮と素畜費低減により低コストを実現している。)
- 繁殖成績の向上により、収益性の高い経営を実現している。
- 「チバザビーフ」に対する消費者の認知度及び購買意欲が向上し、県産牛肉の需要が拡大している。

#### 【現状と課題】

- 肥育経営では、飼料費や子牛価格の高止まりが経営を圧迫し、収益性が悪化しているため、更なる生産基盤の強化が必要となります。
- 繁殖経営では、生産者の高齢化や後継者不足により戸数が減少していることから、スマート技術等の導入により飼養管理の効率化・高度化を図るとともに、繁殖和牛の資質を向上させる必要があります。
- 「チバザビーフ」について、関係団体や量販店等と連携して様々なPR活動を実施していますが、認知度の更なる向上と販売チャンネル多様化が課題となっています。

#### 【数値目標】

項目	現状	目標 (令和7年度)
繁殖和牛の頭数	2,600頭 (令和2年)	2,850頭

#### 【主な取組】

- ・畜産クラスター事業等の活用により、経営規模の拡大や生産性の向上を推進し、収益性の高い畜産経営を目指します。
- ・繁殖成績向上のため、発情発見システムや分娩監視装置等の導入を支援するとともに、これらのスマート技術の定着に向け、関係機関と連携した指導体制の構築を図ります。
- ・肉用牛の生産基盤を強化するため、優良な遺伝資源を持つ繁殖和牛の増頭を進めるとともに、和牛受精卵を酪農経営の乳牛に移植することで、和牛の増頭を目指します。
- ・質の高い牛肉を安定して生産するため、チバザビーフ協議会や関係機関と連携して技術指導と成績の分析による改善を行い、和牛及び交雑種の肥育技術の向上を図ります。
- ・関係団体、量販店、レストラン、観光産業等と連携した県産牛肉、特に「チバザビーフ」のPR活動を引続き推進します。また、インターネット等を活用して、「チバザビーフ」の需要の掘り起こしを図ります。

#### IV 養豚・養鶏 ～安定した販売促進に向けた生産環境の確保～

##### 【目指す姿】

- 企業化が進展し大規模で高い生産性を保つ経営が維持されている一方で、都市近郊型の直売や高付加価値生産物を販売する家族経営も成り立っている。
- 未利用資源や国産飼料などを活用した循環型経営も一部で実践され、環境と調和した経営が実践されている。
- チバザポークや鶏卵などの県産畜産物が、国内需要ばかりでなく輸出にも対応した多様な販売チャンネルを持っている。

##### 【現状と課題】

- 企業化・大規模化が進んでいる一方で飼料高騰や労働力不足、環境との調和などへの対応による安定した経営への一部転換が求められています。
- 豚肉と鶏卵は高い品質と生産力があり首都圏への供給基地となっているものの、さらなる収益向上を目指すには、ブランド力を向上し販売単価を上げる必要があります。
- 消費減少への対応策として販売チャンネルの多様化が求められています。

##### 【主な取組】

- ・施設整備等により生産性の向上や国産飼料の利用拡大を推進することにより、経営の効率化を図ります。
- ・スマート技術の導入や多様な労働力の確保により、慢性的な労働力不足の解消を図ります。
- ・各種疾病に対する家畜防疫対策の強化と農場HACCPの導入など衛生管理の徹底により、経営の安定と安全な畜産物の供給を推進します。
- ・関係団体、量販店、レストラン、観光産業等と連携し、県産豚肉、特にチバザポークのPR活動を引き続き推進します。また、チバザポークを購入できる販売店等をホームページ等を通じて情報発信します。
- ・県内鶏卵事業者が実施する海外での市場調査や、販売促進活動等の取組を支援します。

## V 家畜防疫体制の強化

### 【目指す姿】

○畜産物の安定的な生産と安全性を確保するため、適切な飼養衛生管理による家畜防疫体制の強化が図られている。

### 【現状と課題】

○豚熱や高病原性鳥インフルエンザ等の急性悪性家畜伝染病の発生リスクが年々高まっているため、発生予防対策を講じるとともに、発生に備え防疫体制を強化する必要があります。

○牛のBVD-MDやEBL、豚のPEDやPRRSなどの疾病は、畜産経営において侵入時に損耗が大きいことから、ワクチン接種の徹底や農場への侵入防止、流行の予察などの防疫対策を強化する必要があります。

### 【主な取組】

#### (1) 家畜保健衛生所の機能向上

- ・県内の畜産農家の分布にあわせた家畜保健衛生所の再編整備を行い、家畜保健衛生所の機能向上を図り、家畜伝染病発生時の迅速な防疫対応と農場への指導強化による発生予防対策をより強固なものとしします。

#### (2) 発生予防

- ・畜産農家への巡回指導等を通じて、飼養衛生管理基準の遵守を徹底します。
- ・民間獣医師を活用し、県職員である家畜防疫員以外の豚熱ワクチンの打ち手を確保し、適期での確実なワクチン接種を促進します。
- ・豚熱の発生を防止するため、養豚が盛んで野生イノシシの定着が確認されている県北部の市町村を捕獲重点エリアと設定し、捕獲を強化します。また、捕獲された個体や死亡個体に対し、豚熱やアフリカ豚熱の検査を実施します。
- ・高病原性鳥インフルエンザウイルスの監視体制を強化するため、野鳥の糞便や死亡野鳥のモニタリング検査を実施します。

#### (3) まん延防止

- ・初動対応を的確に実施するため、大規模農場や連続的な発生に備えた防疫資機材の備蓄を強化します。
- ・地域防疫体制の強化に向け、市町村や関係機関との連携を強化するとともに、埋却地や焼却施設の確保を推進し、迅速な防疫措置を実施します。
- ・地域の慢性疾病については、積極的な情報提供と農場毎の検査体制の強化により、県全体での清浄化を目指します。